

ありて二系統を成すやも計り難し。Potentilleae の如きは或は者前中のものならんか。

莎草植物雜記 5

大井次三郎

17) **タカネヒメスゲ**——今夏北海道の夕張岳に行つたときその頂上に近い鞍部の高原にタカネシバスゲ、スイラスゲ等に混じて小さな變つたスゲが生育してゐるのを見付けたので少し澤山採集して教室に歸つた。その後丁度此れを調べて居る時であつた。樺太豊原の菅原繁藏氏から本年採集された禾本莎草の面白いものを送つて貰つたのであつたがその中にも此れと全く同じ種類があつたのでびつくりした。よく調べた所が此のものは以前シベリヤ北部で記載された *Carex melanocarpa* CHAM. である事が確かに成つたので此所に報告する。歐洲に廣く分布する *Carex ericetorum* POLL. に似たものでその亞種にする人もあるが、小穂及び果囊が可なり小形なものと果囊の毛茸が少ない點で私はやはり別種と考へる。本邦のヒメスゲ、スイラスゲに一寸似て莖が低くて硬く直立し葉も硬く、小穂は小形であるので一見區別が出来る。新和名をタカネヒメスゲと云ふ。その Synonymy は次の通りである。

Carex melanocarpa CHAM. ex TRAUTV. Fl. Taimyr. Phaen. (1847) 21, t. 4; TREVIR. in LEDEB. Fl. Ross. 4 (1853) 302; F. KURTZ in ENGL. Bot. Jahrb. 19 (1894) 479; MEINSH. in Act. Hort. Petrop 18 (1901) 400; OSTENF. Fl. Arct. I (1902) 84, f. 62; KÜKENTH. Caric. Cajander. (1903) 9. — *Carex brachyphylla* TURCZ. in Bull. Soc. Nat. Mosc. (1838) 104 nom. et Fl. Baic.-Dahur. 2 : I (1855) 281. — *Carex ericetorum* POLL. subsp. *melanocarpa* KÜKENTH. Cyper. Caric. in Engl. Pflanzenr. Heft. 38 (1909) 440. — Hab. *Yezo* : m. Yubari (J. OHWI n. 5071, 5121); *Saghalien* : m. Horoto (S. SUGAWARA n. 23, 26). — Haec species ad Floram Japonicam nova est !

18) **ムセンスゲ**——故工藤博士が記載されたムセンスゲが *Carex livida* WAHLENB. である事はまづ疑ひのない事實である。一寸チシマスゲに似たもので内地産のもの、内ではヤチスゲの小穂を直立させて巾を狭くした様なものである。南北千島を通じて水苔濕原に分布して居るが朝鮮にも産する。朝鮮では咸鏡南道の中央部、平安道との境界から程遠からぬ東白山の二千米附近の所にある。附近は針葉樹林であつてその中の平らな所が所々樹木がなくて水苔濕原となつて居り、小さな池等が數個ある場所があるが、その池の周圍に少々ある。本州、北海道及び樺太では未発見であるが本州では尾瀬沼等に期待の出来る種類と思はれる。

19) **クロヒナスゲ**——*Carex gifuensis* FRANCH. である。外形はヒカゲスゲの莖葉にヒメスゲの穂をつけた様なもので、葉鞘の頂部背面に丁度禾本科の或種に見る様な著しい葉舌がある事が大きな特徴の一つとして擧げる事が出来る。關東の宇都宮及び日光の附近では此の植物のある事が良く知られて居たのであるが學名の起原である。岐阜のものは故 U. FAURIE 氏のもの以外標本がなく、久しい間奇妙に思つて居た。所が岐阜高等農林學校の川田茂博氏から同地の金華山で採集せられたものを頂き、又島崎樂氏からも美事な生品を恵まれたので岐阜のクロヒナスゲを確める事が出来た。又産地としては以上の宇都宮、日光、岐阜の外に静岡市の杉本順一氏から伊勢の朝熊山産のものを頂いたが私の知つて居る範圍ではそれだけである。KÜKENTHAL 氏が樺太にあると云ふのはヌイラスゲであり、又朝鮮にも産すると云ふのは別種で私が *Carex fusanensis* OHWI と云つて居るものに他ならぬ。

21) **ホロムイクグ**——*Carex tsuishikarensis* KOIDZ. et OHWI は北米産の *Carex oligosperma* MICHX. に近縁な北海道産のスゲであるが先年千島國後島に行つたとき同島の古釜布の大谷地でも採集した。又此の植物は本州の信濃國、霧ヶ峰で飛田廣氏が採集されたが此の事は奥山春季氏が東京科學博物館發行の「自然科學と博物館」46號20頁に報告して居られる。恐らく尾瀬沼等でも見出されるかも知れぬ。

22) **ヒメタヌキラン**——本邦の北端に位する北千島の産で *Carex misandra* R. BR. が天藉である。本州の白馬岳や南アルプスに産するタカネナルコ (*Carex siroumensis* KOIDZ.) に酷似して居て葉の巾が廣い。占守島の潮見川の臺地や、幌筵島の荒川の上流等にあり。私と三高の學生の吉井良三氏とが採集した。本邦での初記録である。分布は Circumpolar で北歐、北部シベリア、勘察加、北米極地等。次に Synonymy をあげよう。

Carex misandra R. BR. in Parry Voy. App. (1823) 283; OSTENF. Flor. Arct. I (1902) 89.——*Carex fuliginosa* var. *misandra* O. F. LANG in Linnaea 24 (1851) 597; KÜKENTH. Cyper. Caric. (1909) 557.——Hab. : *Kuriles* : Shiomikawa ins. Shumushu (J. OHWI et R. YOSHII n. 5740), Arakawa ins. Paramushir (J. OHWI et R. YOSHII n. 190). — Haec planta pro Flora Japonica nova est !

23) **クロアゼスゲ**——學名は *Carex aquatilis* WAHLENB. である。同じく北千島の産で幌筵の荒川、占守島の天神山等の濕地で採集したアゼスゲの近似品である。歐亞米三大陸に分布して居て近隣地方ではシベリヤ北部、勘察加及北米のアラスカ等が知られた産地である。新たに本邦のフロラに加はつたもので和名はないからクロアゼスゲとつけた。